

令和6年度(令和5年度実施事業分)主要事業評価シート						No.	25-1
PDCA	主要事業名	J R 武豊線連続立体交差化事業	部課名	建設部市街地整備課	担当 内線	大岩 455	
P	総合計画： 4 - 2 - 1 単位施策： 市街地 全体事業期間： 平成 24 年度 ～ 令和9 年度 全体事業費等： 8,775,417 千円						
	会計		一般会計		歳出科目： 07.05.01.02.51		
	事業概要等	事業概要： J R 武豊線を高架化し、9か所の踏切を除却することにより、12か所の交差道路を整備する。また、鉄道沿線に側道6路線を整備する。このことにより、東西交通の円滑化、駅へのアクセス向上及び沿線環境の保全を図る。					
		事業目的： J R 武豊線の高架化を実施し、交差道路、側道を整備することにより、東西の円滑化と地域の利便性の向上を図る。					
		事業内容： 東西交通の円滑化や一体的な市街地の形成を図るため、愛知県が実施する高架本体工事等に対して負担金を支払うとともに、J R 武豊線の高架下空間の活用について検討を行う。					
		問題点・課題等： J R 武豊線の高架化と側道整備は密接に関連した事業であり、愛知県と連携してJ R 東海との調整や高架工事を進めていく必要がある。					
	予算額	主要事業とする理由					
	492,806 千円	J R 武豊線を高架化し、交差道路及び側道を整備することで、鉄道により分断された中心市街地の一体化を図るため。					
	財源内訳	得られる成果					
	市費	東西交通の円滑化、地域間の交通利便性の向上が図られ、中心市街地の一体的なまちづくりにつながる。					
	491,800 千円						
	県費						
	1,006 千円						
	地方債						
	0 千円						
その他							
0 千円							
D 値得られた成果と実績	決算額	得られた成果					
	470,521 千円 (うち繰越分 4,397千円)	JR武豊線の高架については、事業用地の確保等を含め事業主体である愛知県と連携し、進捗が図られた。また、高架側道整備事業については、全ての用地地権者と契約締結することができた。					
	成果指標						
	事業進捗率		実績値	57.4	%		
			目標値	57.7	%		
C 課題の整理	事業の評価・課題	C 高架側道整備事業について、粘り強く交渉したことで残り2件となっていた用地を取得（契約）することができた。 高架下空間の活用について、沿線事業者の聞き取り調査や臨海部の企業へアンケート調査、半田小学校や幼稚園のPTAを中心としたワークショップによるニーズ把握を行い、区画整理区域外の高架下に係る基本方針案を作成した。また、高架下も含めた駅周辺の整備については、J R 東海と相互連携した検討体制を構築できた。 今後もJR東海や中心市街地活性化協議会を中心に官民が連携しながら、まちづくりに取り組んでいく。					
A 今後課題の解決に向けた方向性	今後の事業の方向性	拡充推進 JR武豊線の高架化について、引き続き事業主体である愛知県と連携を図る。 高架下空間の活用については、J R 東海はじめ半田駅前の地権者による投資の動向や中心市街地活性化の取組との連携により、半田駅周辺エリアの価値向上を図るべく、まちの将来像やグランドデザインを定める官民連携した整備方針案を作成する。					
	観点別評価	必要性		有効性		効率性	
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ない
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある	⑧受益者負担適正化余地	—
	③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない			

目標項目（予算計上時に作成）

予算見積書で活用

評価項目（決算時に作成）

主要施策の成果報告書で活用